

提 言 書

「地域の特長を活かした観光資源の整備」

平成30年5月17日

三芳町議会政策サポーター会議

目次

第 1	提言の背景と経緯.....	2
1-1	はじめに	
1-2	三芳町の観光施策の現状	
1-3	ワークショップでの意見及び先進地への視察	
第 2	抽出された課題.....	12
2-1	観光拠点の整備（場づくり）	
2-2	観光推進のための人づくり（人づくり）	
2-3	情報発信の拠点整備（情報発信）	
2-4	住みよいまちづくり（観光による地域づくり）	
第 3	課題を解決するための手法（提言）	14
第 4	むすび.....	16
第 5	資料.....	18
5-1	三芳町の観光施策（平成 29 年度）	
5-2	三芳町第 5 次総合計画（観光施策関係 113 頁～119 頁）	
5-3	政策提言リスト（政策サポーター会議作成）	
5-4	三芳町議会政策サポーター会議構成員名簿	
5-5	政策検討会議・政策サポーター会議開催実績	

第1 提言の背景と経緯

1-1 はじめに

三芳町は、埼玉県の南西部に位置し、関越自動車道の練馬ICより約14km、東武東上線池袋駅から最寄りのみずほ台駅まで約25分と都心に近く、首都近郊のベッドタウンとして昭和40年代より人口が増え始め現在に至っている。町の南北を国道254号、関越自動車道が縦断するなど、道路交通網が発展し利便性が良いことから、物流事業者をはじめとする多くの企業が進出してきている。

そのため、昼夜間人口比率が県内第1位、民間事業所数県内町村第1位、従業者数県内町村第1位となっている。

また、農業も盛んに行われており、専業農家率や後継者率も県内トップクラスであり、県内有数の農業生産額をあげている。

平成29年3月には、雑木林の落ち葉を堆肥にして畑に施すという江戸時代より行われてきた「武蔵野の落ち葉堆肥農法」が日本農業遺産に認定された。

さらに三芳町は首都圏近郊にありながら、減少しつつあるものの武蔵野の自然と景観、そして歴史文化や伝統が残り、年間を通して祭り、行事、イベントが開催されており、多くの団体や個人が町の活性化のために活動している。人口約38,500人、面積約15km²と小さい町ながらも商、工、農のバランスがとれた町と言える。

三芳町議会は、これまで議会基本条例・議員政治倫理条例の制定、夜間議会・休日議会の開催、議会報告会の開催、一般質問における一問一答制の導入など開かれた議会、町民に近い議会を目指して議会改革を進めてきたが、さらなる議会機能の強化のため政策立案能力の向上が必要であると考え、先進地である長野県飯綱町議会や北海道芽室町議会へ政策立案活動や政策サポーター制度、政策形成サイクルについて視察を行った。

町民の福祉向上のためには、町民の声を町政に反映し、議会と町民が協働しながら町の課題解決に取り組むことが重要である。

そしてそれは、単なる要望ではなく、町全体を捉えた提言として、

執行側に伝えていくことが大切であると考え、平成29年3月に町民ともに政策提言を実現する政策検討サイクルを稼働させるため、政策検討会議及び政策サポーター会議を設置した。

より実現可能な提言となるよう政策アドバイザーとして法政大学法学部廣瀬克哉教授、政策サポーター会議アドバイザーとして淑徳大学経営学部堀木美告准教授に就任していただいた。

○課題決定までの過程

政策提言の起点は町民の声・意見と考え、政策課題を抽出するため平成29年4月に行われた議会報告会（ふれあい座談会）の意見交換の場をワークショップ形式に変更して実施した。

その後、議会報告会での意見を基に各委員会で課題を検討した。

以下が各委員会より政策検討会議に提出された課題である。

<総務常任委員会>

- ・公共交通について

<厚生文教常任委員会>

- ・学校応援団の環境整備について
- ・将来的に学区の見直しについて

<議会運営委員会>

- ・議員報酬、議員定数及び政務活動費の包括的な見直しの検討について
- ・交通弱者の救済、高齢者の免許返納促進及び廃止された地域福祉バス利用料金助成に代わる等の福祉政策の観点も含めた新公共交通システムの検討について

<広報広聴常任委員会>

- ・持続可能な公共交通のあり方について

・ 地域の特長を活かした観光資源の整備

各委員会より上記の7つの課題が提出された。どのテーマも重要な課題であるが政策検討会議では、「議会だからできること」「議会がやることで変わること」「議会が貢献できる課題」といった点に主眼を置き、以下の政策検討課題の選定のポイントを定め、1つに絞るための協議を行った。

- ①実現可能なもの（成果が出せるもの）
- ②予算・時間があまりかからないもの
- ③執行部と対立しないもの（拒絶されないもの）
- ④少しの修正で福祉向上につながるもの
- ⑤落としどころや課題点が見えやすいもの
- ⑥活発な議論をしやすいよう町民の方が興味の湧くもの

その結果、平成29年度の政策提言として取組む課題は、「地域の特長を活かした観光資源の整備」に決定した。

これといった名所旧跡もなく、首都圏近郊の三芳町がこれからのような観光を目指すのかを政策検討会議で協議を行った。

観光に対する考え方はそれぞれ異なる部分もあるが、課題を抽出し、将来像のイメージを共有しながら進めていくことが重要であることを確認した上で議論を重ねた結果、観光施策を進めていくことは手段であり、目的ではないということとなった。

今ある町の資源に磨きを掛けることは、町の魅力を増大させ、町のブランド力を高め、認知度向上につながる。それは、対内的には、町に対する愛着や誇りを持つことに、対外的には来訪者を増やし、交流人口の増加につながるものとする。

また、経済情勢も厳しく人口減少社会へと突き進んでいる今、自治体間の競争は益々激しくなっている。その中で、観光施策を進めていくことは人材育成や特色ある地域づくりを促し、定住人口の増

加にまで可能性を広げる。

つまり、ただ単に観光入込客数の増加を目指すのではなく、町民が暮らしやすさを実感し、住んでよかったと思えるまちづくりを進めることが観光施策を行う本来の目的であると考えます。

加えて、町でも様々な観光に対する施策や事業を行っているが、思うように進んでいない現状もある。しかし、それを否定するのではなく、ここを直したら改善できる、もしくは観光施策をさらに推進させることができるような提案も必要であると考えます。

以上のことを踏まえ、政策サポーターと共に観光施策を提言することになった。

1-2 三芳町の観光施策の現状

三芳町では、平成23年に設立された「未来創造みよし塾」において「観光のまちづくり」が研究テーマとなり、町民と職員が議論を重ね、観光施策の提言を行った。その中には多くの提言があり、町民と職員が三芳町における観光政策の必要性を議論した意義は大きいものと考えます。

また、平成28年度からの8年間の町の方向性や将来像を示した第5次総合計画においても観光政策が謳われている、『Ⅲ 緑と活力にあふれた魅力あるまち 1 自然環境や景観を活用した観光と地域ブランドづくりの推進』の『3) 観光・地域ブランド』の項では、具体的な今後の施策として、①観光拠点の整備②観光資源のブランド化を挙げている。【資料 5-2】

また、達成目標を観光入込客数、平成35年度目標値110,000人としている（平成26年度80,813人）。課題では、『町内には、「三富新田」「富の川越いも」をはじめ「菜の花」「ほたる」「そば」といった観光資源が存在しますが、面的な広がりに限られ、認知度不足が課題となっています。町の観光資源をさらに活かし、地域ブランド化を図ることで町の魅力を高め、活力あるまちづくりが求められています』としている。

重点プロジェクトの中には、「緑の保全・活用プロジェクト」「西の玄関口プロジェクト」が掲げられている。

これらのプロジェクトを遂行していくためには観光は必要不可欠な要素と考える。

現状と課題を分析し、今後の施策を進めていくためには、どうすればよいのか、足りないものは何かを考える必要がある。

1-3 ワークショップでの意見及び先進地への視察

これまでに8名の政策サポーターと淑徳大学の学生1名と共に7回の政策サポーター会議の開催と先進地への視察を行った。

その中では、政策サポーターと議員を2班に分け、ワークショップ形式で、三芳町の観光の強み、弱み、課題、そして課題解決のための手法について議論した。

また、先進地視察も実施し「おがわまちなか散歩ツアー」を行っている埼玉県小川町を訪問した。おもてなし案内員の説明を受けながら実際に散歩コースを回った後、事業の担当課であるにぎわい創出課より説明を受けることができた。三芳町においても観光ガイドの設置は取り組むべき課題のひとつであり大変参考となった。観光ガイドの設置に向け実施母体や拠点整備の必要性を感じることもできた。

<視察場所> 埼玉県小川町（おがわまちなか散歩ツアー）

<目 的> 観光ガイドの育成について

<日 程> 平成30年2月16日（金）

<対 応 者> 小川町にぎわい創出課
おもてなし案内員

<概 要> 江戸時代に繁栄した小川町の歴史ある建物や街並みを小川町観光協会おもてなし案内員の案内の下、政策サポーター、議員を5名ずつ3グループに分けまちなか散歩ツアーに参加した。その後、事業の目的や事業に至る経緯、課題について小川町にぎわい創出課より説明を受けた。



小川町役場前から「おもてなし案内員」による案内が開始



町内を散歩しながら歴史ある建物や街並みの案内を受けることができる



小川町和紙体験学習センターでは、和紙作成の体験ができる

○ワークショップの会議録

【1班】 笠原高治氏 古寺貞之氏 島田喜昭氏 山田久美子氏
小松伸介議員 安澤 豊議員

～強み～

1. 自然災害が少ない・地形が平坦
2. 三富新田・多福寺・木の宮地蔵堂・300年以上続く地割・美味しい農産物・川越いも・川越街道
3. 人の温かさ・顔の見える近さ・地元愛が強い
4. 自然が豊か・ホテル・こぶしの里の自然
5. 首都圏 30 k m 圏内・都市近郊・ある意味田舎（トカイナカ）・川越 所沢に近い
6. 町内にあるパサール三芳・スマート I C の活用
7. 企業数が多い・社会科見学などの企業訪問・地域を盛り上げようとする企業・大崎電気ハンドボール
8. みよしまつり
9. フルート・音響の良いコピス
10. 生活に必要な施設が整っている・スプロール化してない

～弱み～

1. 交通が不便・バス等交通の便が悪い・町内の移動手段に困る
2. 駅がない・道路 歩道が狭い（ゆっくり歩ける道が少ない）
3. いも街道を車でゆっくり走れない・自転車道の整備（町内回るのに車では速い）
4. 町の知名度が低い・全国区の名所がない・マスコミの利用が少ない
5. 地場産物のアピールが少ない・産業連関がうまく噛み合っていない
6. 若者の地元への関心がない・子どもの減少
7. 町の財政状況が悪い

～課題～

1. 観光ガイドがない・観光に特化した部署がない(観光専門家)
2. 観光に関して町と商工会のタイアップが出来ていない
3. 町内の観光会社やバス会社等とのタイアップ
4. 1時間過ごせる場所がない(通過点になってしまう)
5. 三芳町ロビーストの育成

【2班】勝山 均氏 望月正一氏 高橋和男氏 早川光男氏
尾日向 樹氏 (淑徳大学経営学部観光経営学科学生)
岩城桂子議員 細谷三男議員

～強み～

1. 日本農業遺産・野菜が美味しい
2. 散歩すると気持ちが良い
3. 昔の風景が残っている
4. 伝統的な農業が残っている
5. 畑や林の向こうに雄大な富士がある
6. 各地区に良い地点(観光)が多い
7. 由緒ある寺社がある
8. 東京に一番近い所に広大な農業地帯がある
9. 広大な雑木林があり、住居の後背地に大きな自然がある。自然の雰囲気にも囲まれている
10. 空気に自然の香りがする
11. 自然が多い
12. 山林
13. のんびりした雰囲気がある
14. 季節感がはっきりしている
15. 災害が少ない
16. 320年前の開拓地が残っている
17. 近隣に多くの人がいる

18. 住宅、工業、農業のバランスがよい

19. 畑

～弱み～

1. 自転車で走ることが難しい
2. 観光地に駐車場がない
3. イベントはあるがトータルな観光施策がない
4. 産廃会社が農地の中にある（又、ダイオキシン問題が起こらないとは限らない）
5. 清らかな水の流れが無い
6. 土ほこりが多い
7. バス路線が無い
8. 交通が不便・駐車場が少ない
9. 交通網が脆弱
10. 高齢者の為の交通の悪さ
11. 里山を残す施策が感じられない
12. 同一の場所で年間を通しての集客ができない
13. 東西を結ぶ交通手段が無い
14. 公共交通の駅が町に無く玄関口が無い感じ
15. 町をくぐる公共交通が極めて不便で町内に入り難い
16. 訪問に多数回耐えうる場所、歴史的なポイントが無い
17. 道路の現況が極めて悪い。歩道の無い道路が多い

～課題～

1. 資料館から次に行こうとしてもバスが無い→ケヤキ並木方面
2. 友人を誘って三芳町を案内したい
3. 駅に町を紹介する看板の設置→鶴瀬駅・みずほ台駅
4. 上富小の屋上から見ると火災現場が目立ってしまう
5. 今ある自然も少し手を抜くと自然が無くなる
6. 残すために、税金を徴収するか新たな施策が必要

7. どうしたら今の良い環境を残せるか→交通の不便が今の自然を残せる
8. フルインター化して、車での観光はどうか
9. ドライブしながら写真を撮りアップすることにより、知名度のアップ
10. 循環バスの設置はどうか
11. ケヤキの紅葉・庁舎7階の展望台整備
12. 観光をやって何になりますか→町が綺麗になる。それが一番です
13. 知名度アップ策→交流の場所設置。探検マップの充実。(地図がメインになってしまっている)
14. 宣伝が少ない 観光の基になる場所(拠点づくり)
15. 今は観光の形が変わっている→見るだけから体験型へと変化
16. 町の案内名人



ワークショップの様子

第2 抽出された課題

ワークショップで出された意見を基に三芳町の観光における課題を以下の4項目に絞り分類した。

2-1 観光拠点の整備（場づくり）

- ・三芳には、有名なフルーツ工房があるため、活用すべき
- ・音響の良いコピスで音楽で盛り上げる
- ・観光案内所の設置
- ・ボランティア人材の育成
- ・観光に特化した施設と担当者の設置
- ・どんな町にするか方向性を定める
- ・町民として誇りを持てるようなトラップを作る、インフラ整備
- ・道路の拡張

2-2 観光推進のための人づくり（人づくり）

- ・観光ガイドがない・観光に特化した部署がない
- ・観光資源を取りまとめる、コーディネーターが必要
- ・ガイドの育成、三芳町 PR 人材の育成
- ・シルバー人材の活用
- ・小学校教育に町の歴史を義務付ける
- ・町の魅力を話す人材を増やす
- ・人づくり、まず地元を知る
- ・三芳町物知り名人制度の創設（人材育成）
- ・ご当地検定（勉強を取り入れた旅）
- ・環境メンテのための人材育成
- ・拠点づくり、町案内ガイドの育成、動植物、木々、歴史、風習等の説明

2-3 情報発信の拠点整備（情報発信）

- ・ 三芳町の統一的な掲示板の整理が必要
- ・ 公民館に情報を発信するコーナーを置く
- ・ 三芳パーキングエリアを通過点ではなく、目的地に
- ・ 観光コースづくり
- ・ 観光拠点づくり
- ・ 商工会の参加を
- ・ 賑わいバザール構想の実現を
- ・ 町民に対して、町の魅力を知ってもらう
- ・ 各グループの行事を一覧にする
- ・ どう住民にイベント等を発信しているか
- ・ 多くの事業に取り組んでいるが、ばらばらに動いている。その結果、発信力が弱い。アドレスを一つにすることで解決
- ・ 地域の特徴を活かした観光。農地を活かして葉酸の効能を PR
- ・ 町内の農業の様子が見えるような地域別農作業カレンダーの作成
- ・ 農業センター・資料館へ特設コーナーの設置
- ・ FM 放送局のコーナーを利用・拠点づくり
- ・ 年間イベントを作成し、年間スケジュール表を作り発信する。パンフレット、新聞、個性づくり
- ・ 若者向けのイベント、システム作り
- ・ ポスターのデザインを工夫する、見てもらえるような物をつくる

2-4 住みよいまちづくり（観光による地域づくり）

- ・ 町民がそれぞれの資源に関心を持てるような整備
- ・ 自転車を活用した道の整備
- ・ 町民が地元のことを知るための情報を発信する
- ・ 交通の不便さを逆に利用し、PR する
- ・ ご当地検定を行い商品に野菜を配布、三芳町の良さを共有する
- ・ 川越街道の東西の交流を深める
- ・ 住みよい町づくりをする
- ・ 町の良さを再認識するために第一に住民の為にイベントをする
- ・ ご当地検定の問題を町民から募集する

第3 課題を解決するための手法（提言）

政策サポーター会議の中で三芳町の観光の強みで多く挙げられたのが、自然や景観が残っていることや農業が盛んに行われていることであった。

また、弱みでは、交通の不便さや道路交通網の悪さが多く挙げられていた。【資料 5-3】

本来であれば、強みを伸ばし、弱みを解消していくことが求められる。

しかし、今回は、【第2 抽出された課題】でも既述したように、観光施策を進めていく上での課題として「観光拠点の整備」「観光推進のための人づくり」「情報発信の拠点整備」「住みよいまちづくり」の4点が抽出され、その課題の解決に取り組むためのアイデアが政策サポーターから提案された。そのアイデアについて「重要性」「実現可能性」「効果波及性」「優先順位」の項目について順位付けを実施し総合的に判断した結果、課題解決のための手法が以下のとおり導き出された。

これらの解決手法を「地域の特長を活かした観光資源の整備」として提言する

1 観光を通じてどのようなまちづくりを行っていくのか観光に対する考え方、方向性を定める。

定住人口の増加につながる観光を手段とした住みよいまちづくりを町がどのように計画し実施していくかを町民に対し広く示すことで、町全体として観光施策を行う本来の目的の共有が必要であると考えます。

2 町の観光資源の再認識、再発見するため、観光に特化した組織を設置する。

今ある観光資源を有効に活用するためには、観光に特化した部署や観光施設と施設担当者を設置する必要がある。その上で観光ガイドや観光案内所の設置（ボランティア人材の育成）や観光推

進のための人づくり、観光資源を取りまとめるコーディネーターの配置、三芳町の魅力や歴史、文化を語ることができる三芳町PR人材の育成や観光ガイドの育成なども有効な手段であると考えられる。

3 町の観光施策をさらに進めていくための拠点づくりを行う。

全世界に三芳町の観光を広く周知するためには、情報発信のための観光拠点づくりが必要である。これまでも情報発信は行われているが、統一感を持って効果的に行う必要があると考える。

たとえば、メディアの活用や（仮称）三芳バザール賑わい公園の早期実現も考えられる。

4 町の観光施策を進めていくために可能な範囲でインフラ整備を行う。

今後、観光施策を進めていくためのインフラ整備としては、駐車場の整備や道路の拡張、歩道及び自転車道の整備が必要であると考えられる。

5 町の観光施策を進めるため期限を区切り計画を立て、その進捗状況を検証する。

観光に関する計画が立案されても実行されなければ意味のないものになる。そのため、計画には期限を設けPDCAサイクルを活用するなど、その進捗管理を円滑に進めるとともに、議会への進捗状況の報告を求めるものである。

第4 むすび

今回、政策サポーター会議で提案された手法やアイデアはどれも今後、観光のまちづくりを進めていく上では、必要なものとする。

しかし、ここで考えなければならないことは、どの提案も今の体制の中で誰がやるのかということである。

第5次総合計画の中でも、「認知度不足が課題」とし、「町の観光資源を活かし、地域ブランド化を図ることで町の魅力を高め、活力あるまちづくりが求められる」とある。また、町が行った「未来創造みよし塾」で「観光のまちづくり」が研究テーマとなり、政策が提言されたが、その中でも「司令塔の不在」が挙げられていた。この点が今まで、なかなか観光施策が進まない理由であるとも考える。

その中で求められるのが、新たな部署の設置もしくは観光協会の創設である。こういった観光施策に特化した部門を作ることで、「観光拠点の整備」や「観光推進のための人づくり」及び「情報発信の拠点整備」のために挙げられたアイデアや提案の実行など観光施策をさらに進めることができるものとする。

最後の課題が「住みよいまちづくり」である。これについては今回の政策提言の最大の目的である。

「観光拠点の整備」「観光推進のための人づくり」「情報発信の拠点整備」を進めることによって、その結果として「住みよいまちづくり」につながるものとする。そのためには、まず、町民が町を知り、町の良さを再認識することである。

最後にこの提言は、町民と議員で構成する政策サポーター会議が廣瀬教授、堀木准教授のアドバイスを参考に7回にわたって議論を重ねた結果、導き出されたものであることを町は重く受け止めるとともに、今後さらに国内外を問わず多くの人たちに三芳町に対する関心が広がり、そこに住む町民が誇りと愛着を持つための施策が行われることを期待する。

資 料

5-1 三芳町の観光施策（平成29年度）

事業	日時	場所	内容	主催等
観光情報ホームページでの情報発信	通年		ホームページによる観光情報の発信	三芳町
ちよこたひ埼玉への情報掲載	通年		県公式サイト(ちよこたひ埼玉)への情報掲載	埼玉県物産観光協会
フェイスブックによる情報発信	通年		フェイスブックによる観光情報発信	三芳町
インスタグラムによる情報発信	通年		インスタグラムによる観光情報発信	三芳町
着ぐるみの貸出し	通年		「みらいくん、のぞみちゃん」の着ぐるみの貸出し	三芳町
キャラクターのデザイン利用申請	通年		「みらいくん、のぞみちゃん」のキャラクターデザインの利用申請	三芳町
キャラクターグッズの販売	通年		「みらいくん、のぞみちゃん」のぬいぐるみ及びストラップの販売	三芳町
キャラクターグッズ配布	通年		イベント等開催にキャラクターグッズを配布	三芳町
観光パンフレットの配布	通年		イベント等開催にキャラクターグッズを配布	三芳町
菜の花スタンプラリー	29年3月下旬～4月下旬	竹間沢地区	竹間沢農地環境保全協議会が主催の菜の花摘み取と同時に三芳町のマスコミキャラクターグッズがもらえるスタンプラリーを開催。 【菜の花スタンプラリー】 三芳町	竹間沢農地環境保全協議会 竹間沢農地環境保全協議会
こぶしの里でほたるを見よう	29年5月下旬～6月下旬	こぶしの里	ほたるの鑑賞	竹間沢農地環境保全協議会
とうもろこし収穫体験 (種まき)	29年4月15日(土)	早川農園	農業体験	産業観光グループ
とうもろこし収穫体験 (雑草取り、カブトムシ採り)	29年5月21日(日)	早川農園	農業体験	産業観光グループ
とうもろこし収穫体験 (収穫)	29年7月15日(土)	早川農園	農業体験	産業観光グループ
えたまめがり	29年7月29日(土) 29年7月30日(日)	上富	農業体験	三富落ち葉野菜研究グループ
カミトマルシェ	29年7月29日(土)	農業センター	農業センターにて地域によるマルシェの開催 7店の出店	7店による開催
ロケーションサービス(捜査1課長撮影)	29年4月22日(土)・25日(火)	役場庁舎	ドラマ撮影場所の提供及び協力	三芳町
農と食を繋ぐプロジェクト (そば栽培夏蒔種まき)	29年4月26日(水)	宮公農園	農業体験	ふじみ野市そば商組合
農と食を繋ぐプロジェクト (富の川越いも苗さし)	29年5月24日(水)	宮公農園	農業体験	ふじみ野市そば商組合
農と食を繋ぐプロジェクト (夏そば収穫)	29年7月5日(水)	宮公農園	農業体験	ふじみ野市そば商組合
農と食を繋ぐプロジェクト (富の川越いも収穫体験)	29年10月4日(水)	宮公農園	農業体験	ふじみ野市そば商組合

事業	日時	場所	内容	主催等
真夏の新そば、作れます。	29年8月2日(水)	農業センター調理室 旧島田家住宅	みよし産のそば粉を使ってそば打ち体験を行い、みよし産そば粉で作った夏そばの美味しさを知ってもらおう。また、そば打ち体験、実食後、狭山茶の入れ方の実演、甘味提供により、三芳産狭山茶のPRを行う。	三芳町
真夏の新そば&みよし野菜メニュースタンプラリー2017	29年7月28日～9月15日		みよし野菜市産産物組合が行っている「農と食(店)を繋ぐプロジェクト」を共同で開催。対象店舗で夏そばやみよし野菜メニューを食べながらPRを集めると食事券などの商品がもらえる。 スタンプ5個:500円の食事券、スタンプ10個:1500円食事券 スタンプ14個:2000円食事券と富の川越いも5kg(2000円相当)	みよし野菜市そば商組合
みよしまつり (親光産業課ブース出店)	29年11月12日(日)	役場庁舎周辺	・キャクターグッズの販売 ・イベント等の案内 ・観光PR	三芳町
フレンドシティ感謝デー (西武ライオンズ)	29年9月9日(土)	ドーム前広場	・ドーム前広場における各自治体PRブースに出展 ・自治体SNSコートのカーテイング等 ・サブレ販売、親光グッズ等配布、ふるさと納税PR ・ガチガチちゃんによる景品贈呈(ストラップ、シール等) 三芳町、外13団体参加	株式会社西武ライオンズ
ジモトの魅力伝え隊	29年9月24日(日)	Gコース (富士原市、みよし野市・三芳町方面)	ボランティアガイド団体の魅力伝え隊が埼玉県南西部の魅力を紹介する自転車ツアー	埼玉県南西部地域振興センター
1階展示スペース	29年4月1日～3月31日	役場庁舎1階 展示スペース	各種イベントの案内、観光情報等の発信	三芳町
ほたぐらふら展(三芳町役場1階・2階)	29年6月12日～8月31日	役場庁舎1階 展示スペース	県内各地を自転車で旅して撮影した写真をSNSで発信している「埼玉ほたぐらふらプロジェクト」を主催する方による展示会	三芳町
ほたぐらふら展(中央公民館)	29年9月1日～9月27日	中央公民館	県内各地を自転車で旅して撮影した写真をSNSで発信している「埼玉ほたぐらふらプロジェクト」を主催する方による展示会	三芳町
ほたぐらふら展(旧島田家住宅)	29年9月29日～11月7日	旧島田家住宅	県内各地を自転車で旅して撮影した写真をSNSで発信している「埼玉ほたぐらふらプロジェクト」を主催する方による展示会	三芳町
ほたぐらふら展(藤久保公民館)	30年1月5日～1月16日	藤久保公民館	県内各地を自転車で旅して撮影した写真をSNSで発信している「埼玉ほたぐらふらプロジェクト」を主催する方による展示会	三芳町
ほたぐらふら展(竹間沢公民館)	30年1月19日～2月28日	竹間沢公民館	県内各地を自転車で旅して撮影した写真をSNSで発信している「埼玉ほたぐらふらプロジェクト」を主催する方による展示会	三芳町
ほたぐらふら展(世界一のいも掘りまつり)	29年9月30日(土)	旧島田家住宅	県内各地を自転車で旅して撮影した写真をSNSで発信している「埼玉ほたぐらふらプロジェクト」を主催する方による展示会	三芳町
ほたぐらふら展(産業祭)	29年11月12日(日)	産業祭会場	県内各地を自転車で旅して撮影した写真をSNSで発信している「埼玉ほたぐらふらプロジェクト」を主催する方による展示会	三芳町
夏休みの自由研究 ほくわたしの三富新田作品店2017	29年9月25日～10月13日	役場庁舎2階 展示スペース	県内の小中学校生徒による、三富新田を題材とした夏休みの自由研究作品の展示	三芳町
埼玉県庁舎ショーケース展示	29年11月1日～11月30日	埼玉県庁舎本庁舎	「富の川越いも」および「三芳町親光PRパネル」等の展示	埼玉県
第7回世界一のいも掘りまつり (日本農業遺産認定記念)	28年9月30日(土)	上富(早川農園)	・世界一長い畝でのいも掘り ・食のブース ・三富地調理学とスタンプラリー	世界一のいも掘りまつり実行委員会 (三芳町川越いも振興会・協働のまちづくりネットワーク、後継者部会三芳支部、農業経営研究会・4Hクラブ、JALいるま野・淑徳大学・三芳町) 三芳町
みよし野菜食べて集めて当てちやおうキャンペーン	29年7月1日～10月31日		みよし野菜を購入し、ロマーナの付いた袋やロシールを15点を集めて応募すると、抽選で商品が当たる。	みよし野菜7ラボト化推進研究会
「みよし野菜」と「なたね油」を使った料理コンテスト	29年9月1日～10月2日	中央公民館 キッチンスタジオ	みよしのなたね油とみよしの野菜を使ったオリジナル料理を募集。募集内容は料理部門及びスイーツ部門	三芳町商工会

事業	日時	場所	内容	主催等
みよし野菜産地のレンビ	29年度内		みよし野菜のイメージアップ戦略。淑徳大学生がみよし野菜を食べて考えたレンビを福祉喫茶「ハモニー」がランチとして提供する。	みよし野菜ブランド化研究会
第37回三芳町産業祭	29年11月12日(日)	役場庁舎周辺		三芳町産業祭実行委員会
町イテ！村イテ！2017	29年12月2日(土) 29年12月3日(日)	東京国際フォーラム (有楽町)	・富の川緋いも、いも加工品、お菓子の販売 ・みらいくん、のぞみちゃんによる三芳町のPR活動	全国町村会
体験落ち葉掃き	30年1月20日(土)	木ノ宮地蔵堂周辺雑木林	落ち葉掃きの体験	三芳町
日本農業遺産認定記念シール作成	29年度内		「武蔵野落ち葉堆肥農法」日本農業遺産認定を記念してシールを作成。既存の観光パンフレットに貼って配布する。	三芳町
日本農業遺産認定懸垂幕作成	29年度内		「武蔵野落ち葉堆肥農法」日本農業遺産認定を記念して懸垂幕を作成する。	三芳町
武蔵野落ち葉堆肥農法紹介映像の作成	29年度内		「武蔵野落ち葉堆肥農法」日本農業遺産認定を記念して、農法の紹介映像を作成する。	三芳町
日本農業遺産認定看板作成	29年度内		「武蔵野落ち葉堆肥農法」日本農業遺産認定を記念して、観光看板を作成。	三芳町
武蔵野落ち葉堆肥農法に関する化学的分析	29年度内		堆肥化した落ち葉をすき込んだ畑の土壌の構造、成分、特性等が他の畑とどのように異なるのか。また農法を営む圃場で栽培した作物の成分や食味にどのような違いがあるかを、落ち葉堆肥農法が科学的に有効である根拠を示すための研究をする。	三芳町
紅赤いも120年記念事業	29年度内	町内	紅赤いもが発見されて120年を迎える。その記念事業を行う。	三芳町

5-2 三芳町第5次総合計画（観光施策関係 113頁～119頁）



三芳町第5次総合計画

平成28年度（2016）～平成35年度（2023）

1 自然環境や景観を活用した観光と地域ブランドづくりの推進

1) 自然環境保全と景観形成・緑化

2) 地域イメージの形成

3) 観光・地域ブランド

III 緑と活力にあふれた魅力あるまち

1 自然環境や景観を活用した観光と地域ブランドづくりの推進

1) 自然環境保全と景観形成・緑化

◆◆現状◆◆

町には、住民にとって誇りの源泉となっている平地林や三富新田などの特徴的な緑地があります。こうした自然環境と農地を保全活用し、良好な景観を形成するとともに、緑に恵まれた公園や街路樹の整備、緑化などを増進し、緑と魅力にあふれる景観や快適で持続可能な環境基盤の形成をめざしています。

また、藤久保の平地林が県の緑のトラスト保全地*第14号地に指定されるなど、町の平地林の価値が高まっています。町としても平地林を町有地として確保しており、県との連携を強化しながら、緑の保全に努めています。

◆◆課題◆◆

近年は市街化調整区域での開発が進行するなど、有効な緑地保全策を構築することが急務となっています。そのため、緑地保全に努めるエリアの明確化や建築行為などを制限し、緑地保全につなげる制度や景観条例などの規制が必要となっています。

平地林の整備活動については、国、県、企業、地域住民等と連携を図りながら保全していくことが求められます。また、緑化条例などの規制について検討する必要もあります。

また、優れた自然環境を後世に残し広く住民へ公開するために、緑のトラスト保全整備事業を引き続き推進していくことが求められます。

さらに、けやき並木通り（いも街道）の景観整備や観光化など、街路樹の整備や緑化活動を促進させ、緑にあふれる景観づくりを進めていくことも必要です。

■トラスト保全地



※緑のトラスト保全地：優れた自然や貴重な歴史的環境を財産として後世に残すことを目的に埼玉県が指定するもの。

今後の施策

① 平地林の整備と景観形成【環境課】

国や県の補助事業を活用し行政、企業、地域住民、ボランティア団体等で協力し平地林の整備活動を推進します。また、良好な自然環境となるよう緑地条例や景観条例等により調和のとれた景観形成を検討します。

② 緑のトラスト保全整備事業の推進【環境課】 **重点プロジェクト**

平地林を公有地化し、優れた自然環境を後世に残し広く住民へ公開します。そのため、保全地内の散策路や木柵の設置等の整備事業を推進します。また、トラスト保全地の取得、整備、保全、管理等のための寄附金を町内企業、地域住民等から広く募集します。

③ 緑化の推進【環境課】

緑化推進協議会を中心とした、行政連絡区単位の花植え活動や緑化活動を、行政、企業、各種団体、住民等との協働により推進し、緑にあふれる景観づくりに努めます。

④ 緑地の活用と人材育成【環境課】

緑地の活用や保全について子どもから大人までが参加できる緑地活用プログラムの策定や緑地ボランティア等の拡大や専門家の育成に関する基本方針の策定を検討します。

●達成目標

達成目標	現状値 (平成 27 年度)	平成 31 年度 目標値	平成 35 年度 目標値
保存樹林の指定	2.5ha	5ha	7.5ha

■緑地公園



III 緑と活力にあふれた魅力あるまち

1 自然環境や景観を活用した観光と地域ブランドづくりの推進

2) 地域イメージの形成

◆◆現状◆◆

急激な少子高齢化、人口減少社会のなかで「選ばれるまち」になるためには、町の良好なイメージを町内外に発信し、魅力ある地域イメージの形成を図る必要があります。このことから、町では広報紙や町ホームページ等を通じて町内外に積極的に情報を発信してきました。

特に、これまで、町のイメージである「緑」や「自然」、町のマスコットキャラクター「みらいくん・のぞみちゃん」を活用し、親しみやすい町のイメージづくりを形成してきました。

また、ロケーションサービス*として、庁舎周辺の公共施設を利用したテレビドラマや映画などにおける撮影の協力、支援などを行っています。

さらに、シティプロモーション活動について調査・研究し、今後の施策展開に活かすためシティプロモーション自治体等連絡協議会に加盟し、さまざまな市町村や民間事業者と情報交換や連携を進めてきました。

ふるさと納税は、寄附者の謝礼品に町の特産品や6次産業品、町内企業の工業製品等を利用することで町のPRや寄附額の拡大を推し進めています。

◆◆課題◆◆

魅力ある地域イメージの形成を図るため、積極的にシティプロモーション活動に取り組むことで、情報人口や交流人口の増加を図り、ひいては、定住人口の獲得につなげていくことが必要です。

ふるさと納税については、今後においても、町の特産品等をPRし、地域活性化のツールのひとつとしてさらに拡大していく必要があります。

ロケーションサービスについては、ロケーション地のデータベース*の構築や情報提供を拡大し、さらに、町の魅力をアピールしイメージアップを図る必要があります。

国際交流やスポーツ振興などの視点から地域イメージを向上させるため、2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックの波及効果を積極的に活かす手段を検討することも望まれます。

また、今後も住民が町に誇りや愛着を持てるような機会を設けるとともに、町の魅力やマスコットキャラクターを活用しながら町外に向け広くPRし、地域イメージの向上を図る必要があります。

- ※ロケーションサービス： 映画やドラマなどの撮影をスムーズに進めるため、ロケ地に関するさまざまな情報の提供や公共施設の使用などを支援するサービス。映像を通して地域の魅力を発信し、広くPRしていくもの
- ※データベース： 特定のテーマに沿ったデータを集めて管理し、容易に検索・抽出などの再利用をできるようにしたもの

今後の施策

① シティプロモーション*活動の推進【秘書広報室/政策推進室/観光産業課】

町への愛着意識の向上をめざし、町内外に向けての情報発信を行うため、シティプロモーション各施策を整理するとともに、新たな展開について調査・研究していきます。これによりシティプロモーション基本方針を策定し活動していきます。

② ふるさと納税の推進【政策推進室】

町を応援しようとする人から広く寄附金を募り、町の事業に活用していきます。町の魅力や地元特産品等をPRし、地元産業の活性化を図ります。実施にあたっては返礼品の拡大に努め、地元事業者や企業との連携を深めます。

③ ロケーションサービス事業の推進【観光産業課】

町を舞台とした映像をとおして、町の魅力を積極的にアピールし、イメージアップにつなげていきます。庁舎等公共施設をロケーションとして使用する場合の規定等の整備を行います。

④ 東京オリンピック・パラリンピック効果の活用【政策推進室】

東京オリンピック・パラリンピックの波及効果を積極的に活かし、国際交流、青少年育成、スポーツの振興、観光の振興、インバウンド*等につなげるため、ホストタウン**や日本遺産認定等について検討します。

⑤ 地域イメージの向上【秘書広報室】

適切かつ積極的に町の行政情報や生活情報を提供し、町政への理解を促進するとともに、住民との情報の共有化を図ります。また、町の魅力や住民の顔が見える、地域に密着した記事などを提供し、住民が町に誇りや愛着を持てるような機会をつくり、町外に向けてPRし広く情報発信します。

⑥ マスコットキャラクターの活用【観光産業課】

町のマスコットキャラクターみらいくん・のぞみちゃんを活用して、町内外で行われる各種イベントへの積極的に参加し、町の魅力を広くPRします。

●達成目標

達成目標	現状値 (平成26年度)	平成31年度 目標値	平成35年度 目標値
町への愛着度(住民意識調査)	62%	70%	80%
定住意向(住民意識調査)	83%	85%	90%
ふるさと納税の商品数	14点(H27)	50点	—

※シティプロモーション： 地域資源をブランド化し、戦略的に発信することにより、魅力ある地域社会の形成をめざす広報活動を推進していくこと。戦略的に地域の魅力を発信し展開していくもの

※インバウンド： 日本国外から入ってくる旅行者数、外国人による日本旅行者数

※ホストタウン： 大会開催を契機に、大会や事前合宿等に参加する選手・スタッフ等との交流を通じて、スポーツ振興、教育文化の向上、共生社会の実現を図ろうとする自治体

III 緑と活力にあふれた魅力あるまち

1 自然環境や景観を活用した観光と地域ブランドづくりの推進

3) 観光・地域ブランド

◆◆現状◆◆

グローバル化の進展やアジアを中心とした国際観光需要の増加により、観光振興の重要性が高まっています。

また、観光の形態は多様化し、今までの「見る観光」から「体験交流型の観光」に変化し、地域の人との交流を求める需要も増加しています。

町では、「三富新田」「富の川越いも」をはじめ「菜の花」「ほたる」「そば」といった観光資源のブランド化を進めるため、けやき並木通り（いも街道）、竹間沢こぶしの里を中心に整備を行ってきました。

また、産業祭や世界一のいも掘りまつり、体験落ち葉掃きなどの各種イベントをととして町の魅力を広く発信し、かつ都市住民との交流を促進しています。地域で活動している団体と連携し、観光情報ページ、観光産業課フェイスブックなどでの情報発信を進めて広範囲にPRし、認知度の向上を図っています。

◆◆課題◆◆

町内には、「三富新田」「富の川越いも」をはじめ「菜の花」「ほたる」「そば」といった観光資源が存在しますが、面的な広がりには限られ、認知度不足が課題となっています。

町の観光資源をさらに活かし、地域ブランド※化を図ることで町の魅力を高め、活力あるまちづくりが求められています。

生産者などによる農産物の加工・販売・流通への展開や、企業、団体等による生産者と連携した新商品の開発や加工などの6次産業化の取組も期待されており、観光や体験など、町ならではの付加価値を加えた6次産業化の取組が必要です。

※地域ブランド： その地域に存在する自然、歴史、文化、食、観光地、特産品、産業などの地域資源の「付加価値」を高め、他の地域との差別化を図ることにより、市場において情報発信力や競争力の面で比較優位を持ち、地域に自信と誇りだけでなく、旅行者や消費者等に共感、愛着、満足度をもたらすもの

今後の施策

① 観光拠点の整備【観光産業課】

けやき並木通り（いも街道）や竹間沢こぶしの里等の観光拠点を、各種補助事業を活用しながら整備し、観光客の満足度や利便性の向上を図ります。

② 観光資源のブランド化【観光産業課】 **重点プロジェクト**

「三富新田」「富の川越いも」「菜の花」「ほたる」「そば」といった観光資源のブランド化を図るため、産業祭や世界一のいも掘りまつり、体験落ち葉掃きなどの各種イベントの開催をとおして地域で活動している団体との連携を強めるとともに、SNS等を使った情報発信を積極的に行い、町の観光資源の認知度向上を推進します。

③ 6次産業プラスの推進【観光産業課】 **重点プロジェクト**

生産者などによる農産物の加工・販売・流通への展開や企業、団体等と生産者などとの連携による新商品の開発や加工などの6次産業化に、町ならではの観光や体験などをプラスします。

●達成目標

達成目標	現状値 (平成26年度)	平成31年度 目標値	平成35年度 目標値
観光入込客数	80,813人	90,000人	110,000人

■けやき並木通り（いも街道）



5-3 政策提言リスト（政策サポーター会議作成）

抽出された課題	提言内容	重要性	実現可能性	効果波及性	優先順位
観光拠点の整備	観光ガイドを育成する				
	観光に特化した部署を設置する 三芳には有名なフルート工房があるため、活用する 音響の良いコピスで町を音楽で盛り上げる 三芳町の統一的な掲示板の整理する 観光案内所を設置（ボランティア人材の育成）する 公民館に情報を発信するコーナーを置く 観光に特化した施設と担当を設置する どんな町にするか方向性を定める 町民として誇りを持つようなトラップを作る 道路の拡張を進めていく 駐車場の整備及び歩道の整備する				
観光推進のための人づくり	観光資源を取りまとめ、コーディネーターを育成する				
	ガイドの育成、三芳町PR人材の育成する				
	シルバード人材の活用する				
	小学校教育に町の歴史を義務付ける				
	町の魅力を話す人材を増やす				
	人づくり、まず地元を知る				
	三芳町物知り名人制度の創設（人材育成）する				
	ご当地検定（勉強を取り入れた旅）実施する				
	環境メンテのための人材を育成する				

	動植物、木々、歴史、風習等の説明のための拠点づくり、町案内ガイドを育成する				
情報発信の拠点整備	三芳パーキングエリアを通過点ではなく、目的地にする				
	観光コースをつくる				
	観光拠点をつくる				
	商工会に参加してもらう				
	賑わいバザール構想を実現させる				
	町民に対して、町の魅力を知ってもらう				
	各グループの行事を一覧にする				
	どう住民にイベント等を発信しているか整理する				
	多くの事業に取り組んでいるが、ばらばらに動いている。その結果、発信力が弱い。アドレスを一つにすることで解決する				
	農地を活かして葉酸の効能をPRする				
	町内の農業の様子がわかるような地域別農作業カレンダーの作成する				
	農業センター・資料館へ特設コーナーの設置する				
	FM放送局のコーナーを利用・拠点づくりを行う				
年間イベントを作成し、年間スケジュール表を作り発信する。パンフレット、新聞、個性的なものを作る					
若者向けのイベント、システムをつくる					
ポスターのデザインを工夫する、見てもえらえるような物をつくる					

住みよいまちづくり	町民がそれぞれの資源に関心を持つてるような整備する				
	自転車を活用した道の整備する				
	町民が地元のことを知るための情報を発信する				
	交通の不便さを逆に利用し、PRする				
	ご当地検定を行い商品に野菜を配布、三芳町の良さを共有する				
	川越街道の東西の交流を深める				
	住みよいまちづくりをする				
	町の良さを再認識するために第一に住民の為にイベントをする				
	ご当地検定の問題を町民から募集する				

5-4 三芳町議会政策サポーター会議構成員名簿

三芳町議会政策サポーター会議アドバイザー

淑徳大学准教授 堀木 美告氏

三芳町議会政策アドバイザー

法政大学教授 廣瀬 克哉氏

政策サポーター

	氏名	備考
1	笠原 高治	
2	勝山 均	
3	古寺 貞之	
4	島田 喜昭	
5	高橋 和男	
6	早川 光男	
7	望月 正一	
8	山田 久美子	

政策サポーター協力員

淑徳大学経営学部観光経営学科学生 尾日向 樹

政策検討会議構成員

	氏名	備考
1	井田 和宏	座長
2	小松 伸介	副座長
3	細谷 三男	構成員
4	岩城 桂子	構成員
5	安澤 豊	構成員
6	抜井 尚男	議長

事務局

	氏名	備考
1	齊藤 隆男	事務局長
2	小林 忠之	書記

5-5 政策検討会議・政策サポーター会議開催実績

○政策検討会議

	開催日時	協議事項等
第1回	平成29年5月30日(火) 9時30分から	今後のスケジュールについて
第2回	平成29年6月22日(木) 9時30分から	政策検討課題について
第3回	平成29年7月3日(月) 9時30分から	政策検討課題について
第4回	平成29年7月12日(水) 9時30分から	今後のスケジュールについて
第5回	平成29年8月8日(火) 9時30分から	政策サポーター会議の進め方について
第6回	平成29年9月1日(金) 9時30分から	政策サポーター会議について
第7回	平成29年9月19日(火) 9時30分から	政策サポーター会議について
第8回	平成29年10月12日(木) 9時30分から	政策サポーター会議について
第9回	平成29年10月18日(水) 15時から	政策サポーター会議について
第10回	平成29年11月13日(月) 14時15分から	政策サポーター会議について
第11回	平成29年12月1日(金) 13時30分から	政策サポーター会議について
第12回	平成29年12月15日(金) 10時から	政策サポーター会議について
第13回	平成30年1月15日(月) 9時30分から	政策サポーター会議について

第14回	平成30年2月13日(月) 9時30分から	政策サポーター会議について
第15回	平成30年3月7日(水) 13時30分から	政策サポーター会議について
第16回	平成30年3月20日(火) 13時30分から	政策サポーター会議について
第17回	平成30年3月29日(木) 9時30分から	提言書について 次年度の提言に向けて
第18回	平成30年4月10日(火) 9時30分から	提言書について 次年度の提言に向けて



○政策サポーター会議

	日時	協議事項等
第1回	平成29年10月16日(月) 9時30分から	委嘱状交付 自己紹介 政策サポーター会議の概要説明 町が行っている観光施策・事業等の説明 先進地の事例 意見交換
第2回	平成29年11月29日(水) 15時から	町の観光の強み、弱み、課題抽出のための ワークショップ
第3回	平成29年12月20日(水) 15時から	町の観光の強み、弱み、課題抽出のための ワークショップ
第4回	平成30年1月24日(水) 15時から	町の観光施策に関する課題解決手法の立 案のためのワークショップ
先進地視察	平成30年2月16日(金) 12時20分から	埼玉県小川町 「おがわまちなか散歩ツアー」参加 担当課より概要説明等
第5回	平成30年2月21日(水) 15時から	町の観光施策に関する課題解決手法の立 案
第6回	平成30年3月23日(金) 15時から	町の観光施策に関する課題解決手法の立 案
第7回	平成30年4月26日(木) 15時から	政策提言内容の確認
第8回	平成30年5月17日(木) 16時30分から	政策提言書提出



